

深紅のキリシマ

大阪で一足早く満開に



NPO 会員が来場者に花の魅力を説明

NPO 法人のとキリシマツツジの郷などで構成されるグループ「花の力」プロジェクト実行委員会は、3月7日から12日にかけて、大阪市東住吉区の長居植物園でのとキリシマツツジの展示会を開きました。これまで東京や神奈川、京都などで展示会を開いてきましたが、大阪での開催は初。会期中は3千人以上もの人が会場を訪れ、ふた月ほど早く開いた深紅の花を楽しみました。

展示会には石川県立大学で開花時期を調整した鉢植え、18鉢が持ち込まれました。色が鮮やかな「本霧島」や能登固有種とされる「紅重」など種類も豊富で、花の多様性を一目で知ることができます。最終日の12日には講演会「北前船でつながる花文化」が開かれ、約50人が江戸時代



から脈々と続いてきた、能登の花文化について知識を深めました。NPO会員がこれまでの花の保護育成活動を紹介したほか、キリシマツツジ研究の第一人者が研究成果を紹介しました。新潟県立大学の倉重祐二副園長は江戸時代のキリシマツツジの栽培史について史料などを基にした調査結果を発表。島根大学生物資源科学部の小林伸雄教授はDNA鑑定などによる品種の分布調査について述べました。のとキリシマツツジは昨年「いしかわ歴史遺産」に認定されました。江戸時代から脈々と続く文化を持つこの花を地域振興につなげるため、NPOはキリシマの苗木を配布し、全国の開花時期を「のとキリシマ前線」として取りまとめ、発信する取り組みを進めることにしています。



会場には、3,000人を超える人が来場した



花の分布などについて講演する島根大学生物資源科学部の小林教授

第31回猿鬼歩こう走ろう健康大会

沿道で大会を盛り上げる かかしの制作急ピッチ



5月7日に開催される「猿鬼歩こう走ろう健康大会」のコース沿道に立てられる「かかし」の制作が公民館やスポーツ団体などで、町内の約20の団体で進められています。昨年は約300体を制作しましたが、風雨にさらされるなどして破損し、残っているのはおよそ100体。大会のにぎわい作りのために制作が急がれます。かかしづくりが本格化したのは昨年です。3月23日はウオーキ

ング協会とペタンク愛好会が柳田体育館横の旧冬季寮「若草寮」で、支柱となる竹を加工したり、胴体をペットボトルなどで肉付けしたりして作業にあたりました。大会関係者以外の人も、かかし作りを通じて地元の大大会の運営に参画することができず。町を挙げて大会を成功させようと、かかし500体の完成を目標に残り1カ月間、急ピッチで作業が進められます。



第31回 深紅の花「のとキリシマツツジ」を楽しもう！！

猿鬼 歩こう走ろう 健康大会



日時 5月7日(日) 7:30～8:30 受付・健康診断

会場 柳田運動公園(柳田体育館・野球場)

種目 ○歩こうの部…せせらぎコース 6km
やませみコース 10km
健脚猿鬼コース 16km
○走ろうの部…エントリーは終了しています。

参加費 1,500円

猿鬼歩こう走ろう健康大会事務局
(教育委員会事務局内) ☎ 0768-72-2509



ゲスト
【世界一足の速い神主】
大森重宜さん

・金沢星稜大学人間科学部教授
・ロサンゼルスオリンピック陸上
400mハードル日本代表選手